

各教科で重点的に育成を図る資質・能力

国語科

挑戦心

教材を通して力を付けようとする。

- (1) 子どもの意欲を高められるような言語活動を設定する。
- (2) 子どもの意欲を継続できるように見通しを共有する。

課題を発見する力

ゴールに向かう上ではっきりしないところ、不足しているところに気付くことができる。

- (1) 試行やモデルとの比較により、学習前の自分の力を自覚させる。
- (2) モデルや互いの考えと比較させ、疑問や改善箇所気付かせる。

情報を収集・整理・分析する力

考えるための技法を用いて、はっきりしないところ、不足しているところの解決方法を考えながら、言語能力を高めることができる。

- (1) 教材以外の本や資料を活用させる。
- (2) 全文シートやシンキングツールを活用させる。

社会科

好奇心

新しい事象に出合ったときに、既習や生活経験と関連付けて考え、自ら課題を発見し、解決しようとする。

- (1) 既習との違いを明確にする。
- (2) 子どもの思いを引き出す資料を提示する。

情報を収集・整理・分析する力

資料から正しい情報を読み取ることができる。

多面的、多角的に考え、収集した情報を整理して、自分の考えを深めたり、新たな考えを見出したりすることができる。

- (1) 子どもの必要感に合わせた資料を準備する。
- (2) 子どもの心を揺さぶる資料や発問を工夫する。

伝える力

根拠を明確にして自分の考えを伝えることができる。

- (1) 資料を根拠として活用できるように、話型を提示する。
- (2) 「分かること」と「考えられること」を整理させる。

算数科

向上心

数字や形を変えたり、他の解法を試したりして、きまりや法則を見つけようとする。

学習したことを生活や学習に活用しようとする。

- (1) 自分の考えをいくつ書くことができたか明確にさせる。
- (2) 小さなまとめを入れ、そこから更に考えを深められるようにする。
- (3) 日常生活や他教科に生かせる問題を解いたり、場面を見つけたりする時間を設定する。

情報を収集・整理・分析する力

必要な情報を収集、選択し、図、表、グラフ等を用いて課題解決に向けて取り組むことができる。

多様な考えの共通点、相違点に着目して情報を整理、分類することができる。

- (1) 複数の思考ツールを用意し、自分にあったものを選択できるようにする。
- (2) 操作可能な教材、教具等を用いて、思考を可視化させる。

評価する力

学習課題をどのくらい理解できたかを客観的に評価することができる。

自らの学び方を振り返ることで、自己の変容に気付くことができる。

- (1) 適用問題で間違えたポイントを明確にさせる。
- (2) 学びの姿について、ルーブリック表を用いて評価させる。

理科

挑戦心

見通しをもって、問題解決しようとする。

- (1) 検証可能な仮説を立てさせる。

伝える力

問題解決の過程の中で、自分の考えを相手にわかりやすく説明することができる。

- (1) 表現方法を習得させる。
- (2) 表現方法を選択させる場面を設定する。

情報を収集・整理・分析する力

様々な観察、実験結果をもとに、より妥当な考えをつくりだすことができる。

- (1) 観察、実験結果の整理の仕方を工夫する。
- (2) 複数の根拠を示す必要がある課題を設定する。
- (3) 複数の観察、実験結果をもとに考えをまとめる場面を設定する。

生活科

挑戦心

具体的な活動や体験を通して、思いや願いを実現しようとする。

- (1) 単元のゴールを設定し、相手意識をもって活動に取り組めるようにする。
- (2) 試行錯誤できるよう、時間と場所を保障する。

伝える力

気付いたことや考えたことを言葉や動きで表現することができる。

- (1) 見通しをもって話したり、気づきを自覚したりするような話型を提示する。
- (2) 実物を見せたり実演したりするように促す。

情報を収集・整理・分析する力

目的に合った情報を集めることができる。

- (1) 具体的な活動や体験を通して、様々な情報にふれることができるようにする。
- (2) 情報を視点ごとに分類し、目的に合う情報を見つけられるようにする。

音楽科

好奇心

題材に向き合い、思いを表現しようとする。

- (1) 児童の心が動くような学習材と出合わせる。
- (2) 題材に没頭していく学習課題を設定する。

調整力

一人一人の思いや意図を表現につなげることができる。

- (1) グループワークシートを工夫する。
- (2) 音を聴き合う場を設定し、様々な表現方法に気付かせる。

情報を収集・整理・分析する力

思いや意図に合った音をデザインすることができる。

- (1) 多様な表現を手掛かりにして、感じ取ったことや思い浮かべたことを意識させる。
- (2) 音・映像・言葉などの多様な表現を提示し、必要な情報を選択させる。

図画工作科

挑戦心

題材と出会い、自分の思いを実現しようとする。

- (1) 子どもの実態に合った題材や主題と出合わせる。
- (2) 試行錯誤できる材料や時間を確保する。

伝える力

自分の思いや表現の工夫を、伝えることができる。

- (1) 表現や鑑賞の活動がしたくなる課題を設定する。
- (2) 交流の内容や形態、タイミングなどを吟味する。

向上心

自己の成長に気付き、さらに自分の目指す姿を見出すことができる。

- (1) 思考や表現の過程を交流できる場を設定する。
- (2) 自己の成長を実感できる時間を確保する。

家庭科

向上心

学びを自分の生活の中に生かそうとしている。

- (1) 一人ひとりが技能を習得できる場や学習形態を工夫する。
- (2) 家庭や地域での実践の場を設定する。

調整力

活動を見直し、評価・改善をすることができる。

- (1) 複数回、試せる場を設定する。
- (2) 活動を見合う場を設け、様々な見方・考え方に気付かせる。

課題を発見する力

生活の中から課題を見つけ、解決の見通しをもつことができる。

- (1) 既習の知識や生活体験の中から自分を見つめさせる。
- (2) 題材の見通しがもてるようなワークシートを工夫する。

体育科

挑戦心

失敗を恐れることなく、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組もうとする。

- (1) 運動の楽しさや喜びを価値付ける。
- (2) みんなが楽しめるルールを考えさせる。

調整力

複数の解決方法を試し、他者との対話を通して、よりよい解決策を見出すことができる。

- (1) 局面を絞った発問をする。
- (2) 解決策を実行できる場を設定する。

課題を発見する力

自らの学習課題を振り返りつつ、課題を修正したり、新たに設定したりすることができる。

- (1) 動きを細分化し、視点を明確にする。
- (2) 自己やグループに合ったゴールを設定させる。

道徳科

向上心

学んだことを生活に生かし、これからの生き方をよりよくしようとする。

- (1) 自分事として振り返る時間を設定する。
- (2) 終末場面で、導入に使用した写真やアンケートに立ち返らせる。

聞く力

道徳的価値について再構築するために、友達の多様な考えを共感的に聞くことができる。

- (1) ペアやグループでの話し合いを取り入れ、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。
- (2) 心情円盤などを使って、考えを視覚化させ、自分の考えと比べながら聞けるようにする。

課題を発見する力

資料を読み、どんな問題があるかを見つけたり、何について考えたいかを感じ取ったりすることができる。

- (1) 感想やどんなことを考えたいかを問う。
- (2) 児童の実態が分かるような写真や事前アンケートを示すような導入にする。

外国語科

挑戦心

具体的な課題（ゴール）を意識して粘り強く学習に取り組んでいる。

失敗や間違いをおそれずに相手に自分の伝えたいことを伝えようとする。

- (1) 学習のゴールに対して今の自分がどこに位置付くかを子どもが自覚できるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的、場面、状況を明確にし、子どもの意欲を高められるような言語活動を設定する。

聞く力

教師や友達の話を聞いて、その内容や、自分が伝えたいことを伝えるときに必要な言語材料を聞き取ることができる。

- (1) 聞くポイントを明確にする。
- (2) 聞き取らせたいポイントや子どもの聞く力に応じて複数回聞かせる。

伝える力

自分の伝えたい内容を整理、形成、再構築し、適切な表現を選択・活用して伝えたり伝え合ったりすることができる。

- (1) モデルを提示し、情報を整理しながら考えを形成したり再構築したりする視点に気付かせる。
- (2) 教師や友達のモデル等を通して多様な英語表現にふれさせ、伝えたい内容に合わせた適切な表現を選択・活用できるようにする。